

はしがき

愛知県西尾市の東部に位置する東幡豆は、2015年現在、人口4,840人、1,492世帯の小さな町であり、古くから三河湾の恩恵をたっぷり受けてきた海辺の町である。海岸から600mほど離れたところには前島と呼ばれる無人島があり、その島と海岸の間にはトンボロ干潟と呼ばれ親しまれている干潟（p.57参照）が広がっている。アサリやマテガイをはじめとする様々な生き物が棲息しているこの場所は、昔から愛知県内有数の潮干狩り場を誇ってきた。

今でも豊かな自然の恩恵を受け続けている東幡豆では、現在、トンボロ干潟という地域資源が生かされ、「環境教育」をキーワードとした地域再生の努力が図られており、環境学習だけで、年間約500人の地元及び地元外の子どもが訪れている。このような地域における人々の「努力」、その人々を育ててきた海・自然の「魅力」、そしてそれらによって創造される地域の「活力」、地域の昔と今とこれからの「力（ちから）」を広く発信したいというところに、本書のねらいがある。

本書は、「産業」「観光」「暮らし」「未来」といった多様なものを内包してきた東幡豆の海を通じて、この地域の昔から今にいたる様々な営みを、写真を通して素描している。ここで用いられた一つ一つの写真は、地元の方たちからいただいた貴重なものであり、写真の解説は地元の方たちへの聞き取り調査とその他の参考資料に基づくものである。内容の構成にあたっては、東幡豆を知らない人にも魅力が伝わるように、楽しく、親しみやすく読めるものを心がけた。実際に私たちは東幡豆を何度か訪れ、魅了されている。この地域の良さをたくさんの方に知ってもらいたいと、素直に思う。

近年、沿岸漁村地域は、過疎化・高齢化や後継者不足といった現実と直面している。環境の悪化や魚値の低迷など、様々な課題があることも事実である。しかし、こうした情勢の中でも、その地域の財産というべき「地域資源」があって、「頑張る人々」がいれば、地域の「未来」がある。本書が、そのような「希望」を伝える存在であってほしいと願ってやまない。

李^り銀^{ぎん}姫^ぎ・本間^{ほんま}咲来^{さき}・木村^{きむら}文子^{ふみこ}

● 東幡豆の場所

